

輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2005年に輸入された植物から発見された輸入禁止対象病害虫及び特定重要病害虫の多くは、携帯品で持ち込まれた輸入禁止生果実から発見されている(下表参照)。

	発見病害虫名	寄主植物 (発見植物) 別発見件数	輸出国・地域別発見件数
輸入禁止対象病害虫	<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ (7件)	アズミ生果実(1)、サボテン科生果実(1)、 トウガラシ生果実(4)、ルクマ属生果実(1)	サウジアラビア(1)、チュニジア(1)、 ウガンダ(1)、ガーナ(1)、ペルー(3)
	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群 (216件)	トウガラシ生果実(10)、バンジロウ(グアバ)生果実(21)、バンレイシ生 果実(17)、マンゴウ(マンゴー)生果実(66)、モンピン生果実(8)、レイ シ(ライチ)生果実(11)、レンプ生果実(23)、その他28種(60)	タイ(35)、ベトナム(27)、フィリピン(59)、 インドネシア(19)、台湾(43)、 その他10ヶ国(32)、不明(1)
	<i>Bactrocera tryoni</i> クインスランドミバエ (1件)	トウガラシ生果実(1)	オーストラリア(1)
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミバエ (11件)	ウリ科茎葉(1)、オクラ生果実(1)、キュウリ生果実(1)、 ササゲ生果実(4)、ツルレイシ(ニガウリ)生果実(2)、ヘチマ生果実(2)	タイ(7)、フィリピン(1)、スリランカ(1)、 台湾(2)
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキゾウムシ (2件)	サツマイモ(1)、サツマイモ茎葉(1)	インドネシア(1)、フィリピン(1)
特定重要病害虫	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ (2件)	セロリー茎葉(1)、プロケラ切花(1)	アメリカ(2)
	<i>Naupactus leucoloma</i> シロヘリクチフトゾウムシ (1件)	ミックスベジタブル(1)	オーストラリア(1)
	<i>Ceratitis rosa</i> ナタールミバエ (1件)	マンゴウ(マンゴー)生果実(1)	ナイジェリア(1)
	<i>Zabrotes subfasciatus</i> ブラジルマメゾウムシ (1件)	ライマメ(1)	ミャンマー(1)
	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ (3件)	イエローピタヤ生果実(1)、バンジロウ(グアバ)生果実(1)、ルクマ属 生果実(1)	コロンビア(1)、ブラジル(1)、ペルー(1)

また、輸入禁止対象病害虫及び特定重要病害虫以外では、アメリカ産セロリー生茎葉等 12 カ国 24 種類からアシグロハモグリバエ (197 件)、タイ産キンキジュ生果実等 8 カ国 13 種類からセグロモモミバエ (41 件)、イタリア産テンサイ (ビート) 種子等 8 カ国 5 種類からテンサイさび病 (37 件) 等の重要な病害虫が数多く発見され、侵入が阻止されている。

海外のニュース *Phytophthora ramorum* の類似症状について

欧州や米国において庭園樹や森林樹木に被害をもたらしている *Phytophthora ramorum* は、その侵入・まん延を防止すべき重要病原菌として、諸外国では厳しい検疫措置がとられている(本誌第 79 号)。本菌による病害の発生国・地域では、その被害の拡大を防ぐため、発生調査が行われているが、2003 年に英国南西部のコーンウォール地方において European beech (学名: *Fagus sylvatica*) から *P. ramorum* とは異なる *Phytophthora* 属菌が分離された。分離菌は当初、*Phytophthora taxon C* と呼ばれていたが、形態的特徴、分子系統学的解析により、新種の *P. kernoviae* として記載された。ちなみに種名の *kernoviae* はコーンウォール地方の昔の呼び名 Kernow から名付けられた。

本菌は European beech では地際部の幹に樹脂様の溢出物を伴う壊疽病斑を形成する。また、*Rhododendron ponticum* では、枝枯れ、葉に壊死・萎凋を生じ、急な落葉を起こす。これらの病徴は *P. ramorum* の引き起こすものと非常に酷似する。

これまで、本菌の発生報告は英国以外には無かったが、2006 年 3 月、ニュージーランドの北島北部地域のコフコフでバンレイシ属果樹(チェリモヤ又はアテモヤ)から分離されたとの報告があり、その後、南方にある同じ北部地域のトラウンソン・カウリ公園やファンガレイの土壌サンプルからも検出されている。

本菌の宿主は、現在のところ European beech や *Rhododendron* 属等の 9 属だけであるが、種によっては *P. ramorum* に比べより強い病原性を示す事例も報告されている。本菌については宿主範囲、発生生態、被害状況等の詳細な情報が不足していることから、今後の研究が待たれるところである。

(参考) Mycological Research 109(8)853-859.(2005),
<http://www.biosecurity.govt.nz/files/pests-diseases/plants/kernoviae/kernoviae-presentation.pdf>

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 川口嘉久
編集責任者 君島悦夫
印刷所 内村印刷株式会社